

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191700046		
法人名	有限会社 ササキ総合管理サービス		
事業所名	グループホームすえひろ 温 (ぬくもり)		
所在地	北海道瀬棚郡今金町字今金303-1		
自己評価作成日	平成26年2月26日	評価結果市町村受理日	平成26年4月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0191700046-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北 1 条西 7 丁目 1 番 あおいビル 7 階
訪問調査日	平成 26 年 3 月 20 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは渡島半島の北部にある今金町の中心部に立地しており、昨年3月に開設し今回が初めての外部評価です。近辺に系列のグループホーム、小規模多機能ホームや居宅介護支援事業所があり、運営推進会議や行事活動も合同で実施することがあります。運営者は、高齢者の地域生活の継続とホームと地域との関係を重視した支援に取り組み、経験豊富な総合施設長、母体法人の福祉施設課長と共に長年にわたり地域で認知症の啓発に努めています。介護予防事業や配食サービス、福祉タクシーなど、町の委託で事業を展開するとともにホームを地域の交流の場として開放し、行事案内も新聞折込みで広く住民の参加を呼びかけています。手厚い職員体制に加え、定期的にボランティアを受け入れ、利用者の個別性を重視した介護実践に努めています。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I .理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の職員会議の時に、全員で復唱して共有・確認し、実践につなげている。	地域生活の継続支援及びホームと地域との交流を主幹とした「法人理念」並びに笑顔のある穏やかな生活を中心にした「ケア理念」を職員会議の中で共有し、日々のケアに活かしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お祭りや文化祭、演芸会など町の行事の見学に行ったり、紙芝居や歌などの慰問に来ていただいている。 買物や通院、散歩に出かけた時などに地域の人たちと挨拶や会話をしている。 隣の畑で採れた野菜をいただいています。	利用者は、町主催の行事や町内会活動に参加しています。ホームの夏祭りには大勢の方々が訪れており、高校生の職場体験や、ボランティアの受け入れも積極的にしています。また、近隣住民が収穫したそば粉でそば打ちを実演し、利用者に天ぷらそばを振舞っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「地域交流広場すえひろ」で地域の方々に向けた研修会を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの行事や日常生活の様子を報告したり意見をいただいたりしている。 夏祭りや地域交流広場へも参加していただき、一緒に楽しんだり、勉強したりしている。	運営推進会議は系列のホームと合同で、町担当者、地域包括支援センター職員、社協事務局長、町内会や地域住民、家族など多彩な構成員で定期的開催しています。ホームの運営状況、行事活動、災害対策など多岐にわたり協議して意見をもらい、サービスの質の向上に繋がっています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の福祉担当者とは常に連絡を密にしている。 ケアプランの作成方法などを地域包括支援センターに相談しアドバイスをいただいている。	母体法人は、町の委託により配食サービスなどの在宅高齢者支援事業を実施しています。また、地域の方々が成年後見制度の理解を深め、権利擁護に役立てるための町の取り組みに2名の職員が参加するなど、行政と法人が連携し協力し合いながら、福祉の町づくりをしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が研修に参加し、内容を会議等の場で伝えている。 玄関は防犯上夜間のみ施錠しているが、日中は散歩や外出など、職員が付き添いながら自由に出かけています。	職員は、身体拘束防止研修会に参加した資料を基にホーム内の勉強会で共有しており、拘束による弊害を理解しています。管理者は日々のケアの中で意識づけを徹底して拘束のないケアに取り組んでいます。	日中は玄関に施錠することなく、抑圧感のない暮らしを支援していますが、マニュアルがないので整備されることが望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に積極的に参加し、内容を職員会議で報告することで他の職員も理解し、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者と担当者が同席し、利用者や家族へ説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは日々の会話の中で意見を話してくれます。家族からは、面会に来てくれた時に要望や意見を伺っています。	家族の訪問時に意見や要望を引き出す努力や場面作りをしています。年1回の家族会の中でも忌憚のない意見交換が行われ、表出された課題は前向きに活かし反映させています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やユニット会議で意見交換を行っている。管理者は個別にも意見を聞いてくれている。	管理者は、ユニット会議の中で職員の気づきや、アイデアを取り入れ改善に向けて検討しています。代表者は必要に応じて個人面談を実施し、職員の働く意欲の向上に繋げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個人面談を行い、個々の意見を聞く機会を設けてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	色々な勉強ができるよう、様々な研修に参加させてもらっている。経験の浅い新しい職員へは個別に指導するなどの配慮をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の介護施設に勤める職員らでつくる「としべつ道場」へ参加している。もう1つのグループホームの管理者・計画作成担当者とは会議を開いて交流をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話の中で、要望を引き出せるよう心掛けている。できないことの支援をし、継続することで信頼してもらえるように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に会話をする中で、不安や要望を伺うようにしている。電話対応でも安心していただける様な会話をするようにしている。支援内容を説明し安心していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	会議等で情報の共有と意見交換をし考えている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一個人として、その人の立場になって考えたり、接したりしている。出来ることはしてもらい、出来ないことをサポートしながら一緒に行うようにしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コミュニケーションを取りながら、利用者にとって良いケアを考え、共に支える関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は自由で、お友達が面会に来られたり、外出時にお知り合いとお話しされています。馴染みのお店や、懐かしい場所へ出かけることもあります。	利用者は地元出身者が多いので、来訪者はボランティアの方々や面会に来る家族が知人及び友人となる場合も多く、職員が差し出すお茶で会話を楽しんでいます。美容室は希望により馴染みの所に送迎をしている外、理容室の代表者の奥様がボランティアとして定期的に訪れており、関係が継続できるよう柔軟に支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ゲームや体操などは声掛けをし行っている。状況により職員が関わって良い関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居時には情報提供を行い、その後も面会などして様子を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中で希望や意向を把握できるように努めている。 希望にそえるよう職員間で話し合っている。	契約時に本人の生活歴や意向を家族から伺っています。職員は、日々の関わりの中で会話や表情、動作から訴えを理解し、本人本位のケアに努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話の中で聞き取るようにしている。 家族からも聞き取りをし、把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日コミュニケーションを取りながら、様子や表情などからも状態を把握するように努めている。 “出来ること”を大切にしお手伝いなどをいただいている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成にはセンター方式を採用し、日頃からの利用者や家族の要望を職員間で話し合い、ケアプランの作成に活かしている。	介護計画はセンター方式を利用し、介護計画原案を基にユニット会議でかかりつけ医や本人、家族の意見を反映させ、職員のアイデアを取り入れて、モニタリングを繰り返しながら現状に合った計画を作成しています。介護日誌に計画の実施状況が記録されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を大切にするとともに、伝達ノートやユニット会議で情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や気づきがあれば、会議等で話し合っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町の文化祭へ作品を出品したり、秋祭りや文化祭の芸能発表を見学に出かけ、楽しんでいただいています。 民謡サークルなどの慰問をいただいています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する病院・医師の受診を支援している。 月に2回、町立国保病院からの訪問診療を受けている。	協力医でもある町立国保病院が主治医としている利用者が多く、緊急時の体制も整えています。月2回の八雲町総合病院の精神科医師の往診や、年2回町内歯科医師がボランティアで診療に訪れており、適切な医療を受けられるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の状況や変化は常に看護師に申し送り、引き継ぎをしている。 受診時には医師へも伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時における病院との情報伝達を密にしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に対しては重要事項説明書で指針の説明をしている。 また、その都度状況を報告をしながら相談をしている。	重度化や看取りに関する指針は契約時に家族に説明し、同意を得ています。開設して日が浅いので看取りの経験はありませんが、職員は外部研修会に参加した資料を基に内部勉強会を実施し、看取り介護についての知識を習得中です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力をいただいて、応急手当・心肺蘇生法・AEDの使い方などの研修を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行っている。 全職員がしっかりと身につけるために更に訓練を重ねる必要がある。	日中と夜間想定 of 訓練を年2回、消防署の協力と町内会、近所の方々、推進会議メンバーの参加で実施しています。屋内避難場所の確保及び系列事業所との協力と連携体制を整えており、備蓄品も用意されています。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目線を合わせたり、丁寧な言葉づかいに気を付け接している。 会話の声が大きくなってしまうことがある。	職員は利用者一人ひとりに応じた声がけや声のトーンに配慮し、尊厳や誇りを損ねないケアを実践しています。個人情報に関する書類は、一定の場所に保管しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを取りながら、本人に合わせたペースで生活してもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大切にしていますが、活動が少ない方には声掛けをしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	声を掛けたり、少しお手伝いをする事で、皆さん自分の好みに身だしなみを整えています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの好みを知りメニューに取り入れるようにしています。調理の下拵えや、食器拭きなどをお手伝いしていただいています。	利用者が畑で育てた野菜や近隣の方から頂く野菜を食材とし、利用者の嗜好を反映して献立を作っています。利用者は調理の下ごしらえや盛り付けなどの一人ひとりが出来る事を職員と一緒にしており、食事が一日の大切な活動の一つとなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や形態は一人ひとりに合わせています。水分摂取量はチェック表で確認しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後や就寝前に声掛けをしている。自立して行っている方もいます。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	コミュニケーションを取りながら、個々に関わるようにしています。	職員は排泄チェック表を基に一人ひとりのパターンを把握し、さりげない声かけや手引き誘導と時間誘導など、本人に合わせた対応をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表で確認しながら、食べ物や水分量、軽い運動などを工夫している。看護師と相談をして、薬の調整をする場合もある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の体調や気分に合わせて入浴していただいている。入浴時間は午後の時間帯になっている。	週2回の入浴を目安にしていますが、希望によりいつでも入浴できるよう体制を整えています。入浴を拒む利用者には、強制することなく入浴剤を変えたり、楽しい会話をするなど工夫をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々体調に合わせて休んでもらっている。照明の明るさも調整するようにしている。入所前と同様にラジオをかけながら寝ている方もいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の変更があった場合は全員に伝達している。一人ひとりの服薬を確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの方に出来ることをお手伝いいただいています。好きな飲物を飲んだり、レクリエーションや買物に出かけたりして、気分転換をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩に出たり買物に出かけている。花見や海岸へドライブに出かけたり、秋には家族同伴でくだもの狩りへ出かけました。	天気の良い日は家庭菜園やテラスでの外気浴をしています。春の花見から秋の果物獲りに至るまで季節に合わせての遠出の外出は家族同伴で外出を行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かっているお金で、買物などに出かけています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望にそって電話の取り次ぎをしている。年賀状を出すお手伝いをしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった飾りや、利用者と一緒に作った貼り絵を飾っています。明るさや室温の調整に気をつけています。清掃を心掛けています。	広くゆったりとした玄関に利用者の下駄箱が備え付けてあり、食卓テーブルやソファが家庭的に配置され利用者の居場所を確保しています。移動が可能な畳の小上がりは、小物入れやカラオケや踊りの舞台にも利用でき、大きな窓からは陽が差し込み季節の移り変わりを感じることが出来ます。地域住民と交流できるスペースもあり、不快な臭いや音もなく、清潔感のある共有空間です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士がお話しをしたり、テレビを見たり、居室で休まれたりと自分なりの居場所で過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅を使っていた物を持ち込まれています。	居室はダンスやベットが備え付けてあり、入居以前の家具や生活用品が持ち込まれ、家族の写真や行事の時に頂いた紙製のメダルが飾られており、一人ひとりが居心地良く暮らせるよう工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール・トイレ・浴室など各所に手すりを付けている。自分の部屋やトイレなどの表示を分かりやすく工夫している。		